

文化財みであるき

（長瀬地区）

長瀬局前周辺

伊勢信仰の常夜灯 明治元年

伊勢神宮を表す「太神宮」と刻まれています。もとは長瀬橋詰にあったようで、伊勢神宮の道しるべであったり、神宮を拝む対象物の燈として建立されたものだと考えられます。上長瀬地区の場合は「太一」と刻まれていて、影響を受けた文化の違いを感じさせられます。

歴史を刻む下り松碑

国津神社参道に、樹齢一千年余りと伝わる県下の名木と呼ばれた「下り松」がありました。周囲およそ25尺、高さ60尺余り、地上15尺余りから伸びる枝が下に垂れていて、その割れ目には桜の木が寄生していて開花時にはすこぶる綺麗だったという記録があります。

明治九年の伊勢暴動の際に、伊勢方面からきた暴徒に放火され被害を受け、昭和初期の台風で倒木してしまったと言われています。

長瀬橋周辺

伊賀で最古の道標

宝暦元未三月(1751)の銘があり、伊賀地方で最古の道標です。「左 たなお 右 たろお」とあり、大戸屋と床並の分岐点に建てられていたものです。その時代の道を知る手がかりとなる大変貴重な道標です。

庚申信仰の庚申碑 延宝8年(1680) 貞享3年(1686)

60日に1度巡ってくる庚申の日の夜に眠らずに過ごして、健康長寿を願う行事が庚申行事です。室町時代から始まり、全国的に江戸時代に庶民に広まり、多くの庚申碑が建立されました。名張市内でも70基以上の碑が確認されています。特に比奈知地区に多いのが特徴ですが、この碑は17世紀後半に長瀬地区でも盛んに庚申行事が行われていた事を示します。

庚申信仰 庚申の夜に三尸(さんし)という虫が睡眠中に身体から抜け出して、天帝にその罪過を報ずるから命を奪われるという信仰。(道教の説)

榎(かや)

天然記念物の左巻榎

殻の縦に通る筋が左にねじれる性質があるので左巻榎と命名されました。実や葉も普通の榎よりも大きく大粒榎とも言われています。

布生出身の森川均一氏(九州帝国大学助教授 1898～1936)が昭和3年学会誌に発表し、昭和11年に県文化財に指定されました。県内では神屋・亀山・美杉の4箇所にあるのみです。

基準標本木だった小粒榿 *Torreya igaensis* Doiet *Morikawa*

普通の榿より実も葉も小さい榿を森川氏が世界で初めて発表し、小粒榿と命名されました。左巻榿と同時に天然記念物に指定されました。最初に発見された長瀬の小粒榿が基準標本木となり、以降に発見された木はその木を基準として同定されていきました。

残念なことに昭和 34 年の台風で倒れてしまいましたが、その二世が育っています。

国津神社

石灯籠 貞享 2 年（1685） 貞享 3 年（1686）

三社常夜灯 天保 11 年（1840）

手水鉢 文政 2 年（1819）

将軍 綱吉 1680-1709
貞享 2 年 芭蕉「野ざらし紀行」
貞享 3 年 近松門左衛門初演

不動寺

珍しい六地藏石幢

一見、石灯籠のようですが、六地藏石幢と呼ばれています。寺の本堂などに垂れている旗を幢（とう）といいます。それを石造にし、六地藏を刻んだものです。形式から見て桃山時代（16 世紀後半・秀吉の時代）の頃のものだと思われます。名張市内ではあと夏秋にあるだけで珍しいものです。

鎌倉時代の古い五輪塔

上から空・風・火・水・地を表しています。これらが宇宙を構成するものだと説く仏教思想に基づいています。平安時代後期から塔として建てられました。この五輪塔はそれぞれの特徴から鎌倉時代の作だと思われ、数多くみかける五輪塔のうちでも非常に古い部類に入ります。

昔話が伝わる厄除石 『やくよけ石』（なばりの昔話）

厄除け祈願で賑わう境内にどこからともなく石が落ちてきたが、誰にも当たらず無事だったので、ご利益のある石としてお祭りしたという昔話が伝わる石です。

貞享 2 年石灯籠

< 参 考 >

江戸時代	1600 年～1867 年
享保 15 年	1730 年
寛政 9 年	1797 年
弘化 4 年	1847 年
天保 2 年	1831 年
文化 2 年	1805 年
文政 11 年	1828 年
寛永	1624 年～1643 年